

1 自分を見つめて
① きんぐへんごんげんせいのよい毎日を

P.10~19

1-①

健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがまをしないので、規則正しい生活をする。

1 この内容項目のページの特徴

本内容項目は、学習指導要領で示されている道徳の指導内容の重点の一つである自立心や自律性を育てること、また、挨拶などの基本的な生活習慣を身に付けることと関連の深い項目である。

この項目においては、一日の生活を振り返ることができ、イラストのページとともに、学校や家庭での身の回りの様子について振り返ったり、チェックしたりするページが設けられている。

十三・十五ページのチェックシートについては、各自が、実態に応じて項目を考えられるよう、項目を空欄にしている箇所もある。自分の課題に応じて、より主体的に基本的な生活習慣を身に付けることができるような工夫をしている。

2 活用のポイント

低学年の段階では、特に健康や安全に気を付けること、物や金銭を大切にすること、身の回りを整えることなどの具体的な指導を進める必要がある。それとともに、わがまをしないで規則正しい生活をするための大切さや気持ちのよさについて生活を振り返って考え、基本的な生活習慣を自ら身に付けていくことができるようにする必要がある。

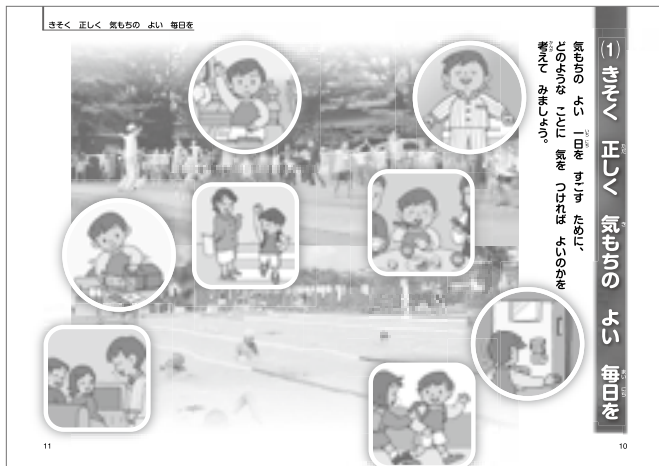
3 活用場面例

道徳の時間

十・十一ページは、一人一人の児童が自分自身の基本的な生活習慣の定着状況を自覚し、今後の課題を明確にする際の資料として活用できる。また、毎日を気持ちよく過ごせるようにするための話合いの際にも活用できる。

事例

- ① 十・十一ページの八つの場面について、気持ちのよい生活を送るために気を付けることを話し合う。
- ② 読み物資料「るっぺどうしたの」を読んで話し合う。



P.10~11

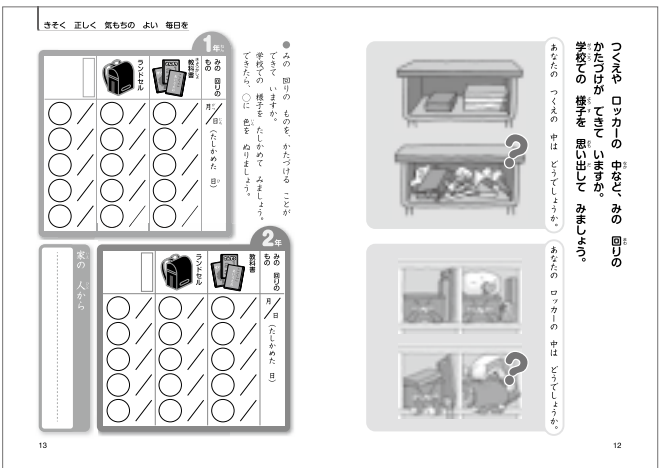
- ③ 八つの場面以外にも、規則正しく気持ちのよい生活を送るために大切なことを話し合う。
- ④ 十三・十五ページに書かれた家の人からの言葉を紹介する。

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」の「イ 基本的な生活習慣の形成」の指導に当たって、自分の生活を振り返って、基本的な生活習慣を身に付けていこうとする態度を養う際に活用できる。

事例

- ① 十二ページのイラストを見て、机やロッカーの中の様子、机やロッカーの違う、乱雑にしている、と困ることに、ついて話し合う。
- ② 各自が自分の机やロッカーの中を確認して整頓する。
- ③ 使いやすい机の中の配置などについて話し合い、自分が



P.12~13

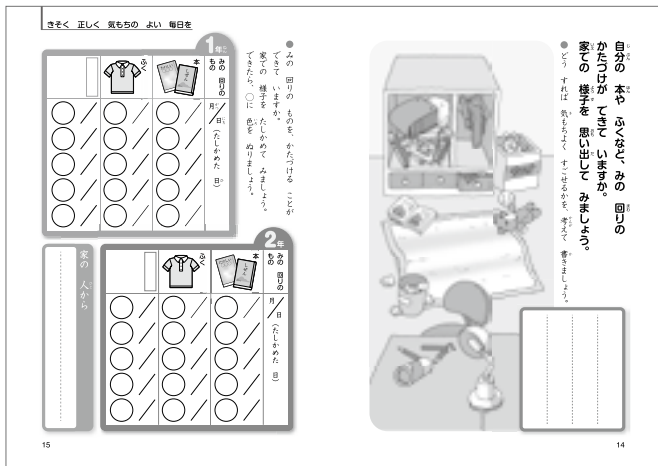
- やってみようと思う整頓の方法を決める。
- ④ 「整頓週間」などのときの目標を各自で立て、十三ページでチェックしていくようにする。

家庭との連携

家庭と連携し共通理解を図って、十三・十五ページの「家の人から」の欄に励ましの言葉などをもらうことを通して、身の回りを整えようとする児童の意欲を高めることができる。

日常生活

基本的な生活習慣は、日常生活で繰り返し指導する中で習慣として定着していくものである。期間を決めて、十三・十五ページのチェックシートを活用し、自己評価をすることで、児童が主体的に基本的な生活習慣を身に付けていくことができる。



P.14~15

1 資料の特性

るっぺは、わがままいっぱいで、朝も、ぐずぐずしてなかなか起きられない。ぴよんたが誘いに来ても、ぐずぐずしている。学校の休み時間には、友達の間を嫌がることをわざとする。

こうしたるっぺの言動について、るっぺの何が、自身だけでなく、周囲をも困らせているのかを考えることができる資料である。

2 指導上の留意点

本資料の活用にあたっては、るっぺを児童自身に重ね合わせて、その気持ちや思いを想像させるようにする。自分の中にも、わがままをしよう自分とわがままをしないで行動できる自分がいることに気付かせた上で、わがままをしないで、規則正しい生活をするようにして考えさせるようにしたい。

3 展開例

【ねじり】

わがままをしないで、規則正しい生活をしようとする態度を育てる。

事例①

役割演技を生かして、るっぺの思いを考える展開

◎ 役割演技の活用

登校中と休み時間の二つの場面で、るっぺと他の動物の役になって役割演技を行う。わがままな行動をしたときの気持ちとわがままに振り回されたときの気持ちの両方を考えるために、役割を交代して両方の役を演じるようにすることもできる。

わがままな行動が自分自身、そして、周囲をも困らせていることに気付かせた上で、わがままをしないで規則正しい生活をするようにして考えさせるようにする。

事例②

るっぺの行動について考える展開

【主な学習】

- ① お母さんにいつも起こされるるっぺをどう思うか。
 - ・ 自分のは自分ではないと駄目だよ。
 - ・ 自分もこんなことがあるなあ。寝坊したら、嫌な気持ちになるんだよ。るっぺもそう思っているんじゃないかな。
- ② ランドセルから中身が飛び出したるっぺに何と一言ってあげたいか。
 - ・ ちゃんと身の回りのことは自分でしないとイケないよ。
 - ・ そんなことをしていたらるっぺも周りのみんなも困るんだよ。
- ③ わがままをしないで過ごせたことについて話し合う。

【主な学習】

- ① 朝、起こされる場面で、お母さんに「毎朝、同じことを言わせないでちょうだい。」と言われたときのるっぺは、どのようなことを思っていたのか。
 - ・ うるさいな。それぐらいいいじゃないか。
 - ・ だって起きられないんだもの。仕方ないよ。
- ② 登校中の場面で、「だつてえ。」と言っているときのるっぺは、どのようなことを思っているのか。（役割演技を通して考える。）

るっぺ：なぜか、ついこうなっちゃうんだよ。
 ぴよんた：早起きしたり身の回りを整えたりした方がるっぺも気持ちいいはずだよ。

- ③ 休み時間の場面で、「るっぺくん、やめて。」と言われたときのるっぺは、どのようなことを思っていたのか。（役割演技を通して考える。）

るっぺ：僕がしたいようにして何が悪いんだ。そんなに責めるのなら、もっとやってやるぞ。
 みけ：わがままばかりしていたら、みんなと楽しく遊べないよ。

- ④ ぼんこが目を押さえてしゃがんだとき、るっぺは、どのようなことを思ったのか。
 - ・ みんなが責めるから腹が立ったんだ。
 - ・ わがままなことばかりして、ごめんさい。
- ⑤ 生活の過ごし方について、自分は、どのようなことが大切だと思うか、るっぺに手紙を書いて伝える。

■ 1の視点 重点ページ

生活をふりかえってみよう

1 このページの特徴

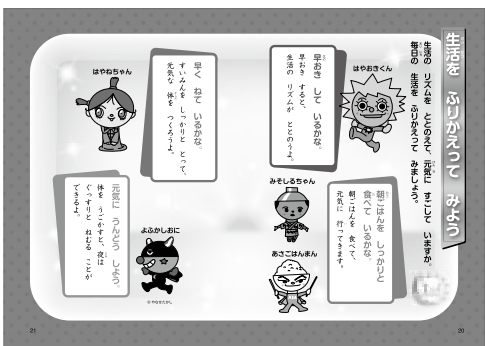
道徳の指導内容の重点の一つである自立心や自律性、基本的な生活習慣に関して、特に、毎日の規則正しい生活習慣の実践化を図ることを取り上げたページである。

「早ね 早おき 朝ごはん」運動のキャラクターを用いて、日常生活を振り返り、基本的な生活習慣を身に付けようとする意欲を高めることができる。

2 活用事例

■ 日常生活

二十・二十一ページを用いて生活を振り返り、基本的な生活習慣を身に付けようとする意欲を高める。その後、日常生活において継続して指導するための掲示資料として活用することができる。



P.20~21

P.20~21

1 自分を見つめて
② 自分をやらなければいけないこと

P.22~31
1-(2)

自分がやらなければいけない勉強や仕事は、しっかりと行う。

1-1の内容項目のページの特徴

本内容項目は、学習指導要領で示されている道徳の指導内容の重点の一つである自立心や自律性を育てることと関連の深い項目である。

二十二・二十三ページでは、学習や当番活動、手伝いなど、児童がやらなければいけないこととして想起しやすい場面がイラストで示されており、これらの場面を見ながら、勤勉・努力について、自分自身の生活と重ね合わせて考えることができる。また、二十四・二十五ページでは、「自分でやらなければいけないこと」について書き込み、できたら○に色を塗るようになっていて、努力したことが見える形で示されるようになっている。

さらに、読み物コラム「うさぎとかめ」では、このことと努力することの大切さが示されている。これらのページを通して、勉強、学校や家での仕事について、やらなければいけないことを自分で決めて、しっかりとやっていこうとする実践意欲を高めていくことができる。

2 活用のポイント

児童が、自分のやらなければいけないことに対して、くじけずに努力していくことができるようになるためには、やり遂げたときの喜びや充実感を十分に味わい、頑張ることができた自分に気付くようにすることが大切

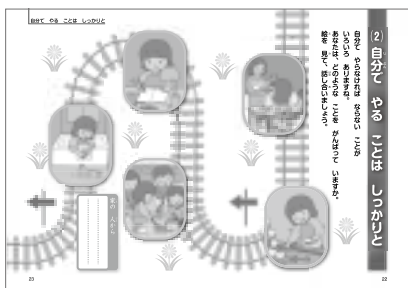
である。そのため、指導に当たっては、児童が自分の頑張りを振り返る機会を多くもつようにしたい。

3 活用場面例
道徳の時間

二十二・二十三ページの一日の流れに沿った五つの場面のイラストを見ながら、児童は、自分の生活と重ね合わせて考えることができる。生活の中で頑張ってやっていることについてより具体的に振り返って考え、やらなければいけないことをしっかりとやっていこうとする実践意欲を高める際に活用することができる。

事例

- ① 二十二・二十三ページの五つの場面のイラストを見ながら、勉強や当番の活動など自分が頑張っていることを振り返って話し合う。
- ② 読み物資料「小さな力のみかさね—二宮金次郎—」を読んで話し合う。
- ③ 自分がやらなければいけないことを頑張ってやっ



P.22~23

かったと思ったことを振り返る。

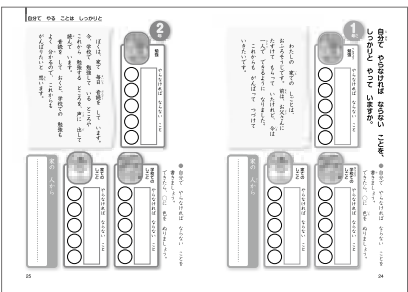
④ 努力に関する教師の体験や願いを聞く。

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」の「ア 希望や目標をもって生きる態度の形成」や「エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解」の指導に当たって、自分の生活を振り返り、当番活動の役割や働くことの意義などについて理解し、自分ですべきことの目標をもって活動しようとする意欲を高める際に活用できる。

事例

- ① 二十二・二十三ページのイラストを見て、自分がこれまで頑張ってきたことや学級での自分の役割について話し合う。
- ② 二十四または二十五ページの書き込み欄に、自分がこれから頑張ってやっというと思うことについて書き込む。
- ③ 期間を決めて、自分で「やらなければいけないこと」に取り組む。
- ④ 自分で頑張ろうと決めた「やらなければいけないこと」について自己評価し、できたと思ったら、好きな色を塗っていく。



P.24~25

道徳の時間や学級活動での学習の様子を学級通信等で家庭に伝え、家庭と共通理解を図って、二十三から二十五ページの「家の人から」の欄に励ましの言葉などをもろうようにする。やらなければいけないことをしっかりとやっていこうとする児童の実践意欲を家庭と連携して高めることができる。

家庭との連携

日常生活

二十四・二十五ページの書き込みを基に、自分が頑張っていることを朝の会や帰りの会などで紹介したり、友達同士で認め合ったりすることで、今後の活動への意欲を高めることができる。

二十六・二十七ページの「うさぎとかめ」は、国語科や音楽科と関連を図りながら、朝の会や帰りの会などで読み聞かせたり、歌ったりする活動が考えられる。そうした活動の中で、このことと努力を積み重ねていくことの大切さを考えたり感じたりすることができる。



P.26~27

1 資料の特性

本資料は、「金次郎の生い立ち」「金次郎の夢」「くじけそうな金次郎」「菜種を育て努力する金次郎」「大人になって夢をかなえた金次郎」の五つの部分に分けることができる。勉強して、一人前になり、家を造り直したいという夢をもち、努力を積み重ねる金次郎の姿から自分でやろうと決めたことは、くじけずしつかりと成し遂げようとする態度を育てたい。

2 指導上の留意点

本資料では、夢に向かって努力を重ねた金次郎の姿を通して、途中で諦めたり投げ出したりせず、今やらなければならぬことにひたむきに取り組んでいくことが、夢をかなえたり目標を達成したりすることにつながるということを考えさせるようにする。

目標を達成したり、夢をかなえたりするためには、くじけそうな思いや諦めなくなる気持ちを持ち越え、努力を日々積み重ねていくことが大切である。夢をかなえた喜びとともに、金次郎がどのような思いで努力を重ねていたのかを考えさせることによって、くじけそうな思いや諦めなくなる気持ちを持ち越えて努力を重ねることの大切さを考えさせるようにしたい。

- ・ 授業のとき、ノートに字を丁寧に書くようにしたら、みんなに「上手だね。」と言われてうれしかった。
- ・ 当番の仕事を丁寧にやるように頑張っていたら、みんなが喜んでくれてうれしかった。
- ・ 手伝いを自分からやったら、お母さんにほめられて、また頑張ろうと思った。

◎板書の工夫

時代背景など、低学年の児童にとっては、理解が難しいと考えられる部分もある。

そこで、児童が金次郎の思いを考えられるようにするために、時代背景や状況を言葉で説明するとともに、板書掲示を工夫するようにしたい。

例えば、菜種油が減っていく中で勉強する様子、菜の花が土手一面に広がった様子、造り直すことができた家を見つめる様子などの場面ごとに場面絵を掲示することで、苦労や努力、夢の実現の各場面での金次郎の思いを想像させ、自分との関わりで金次郎の思いを考えさせるようにする。



3 展開例

【ねらい】

自分がやらなければならぬことは、最後まで諦めずにしつかり行おうとする態度を育てる。

事例①

努力してやり遂げたときの喜びについて考える展開

【主な学習】

- ① 仕事が終わってからの、眠い目をこすりながら、夜遅くまで本を読んでいる金次郎は、どのようなことを考えていたか。
 - ・ 眠いけど、頑張って勉強するぞ。早く一人前になりたいな。
 - ・ 頑張って勉強して、夢をかなえたい。
- ② 菜種の世話をする金次郎は、どのようなことを思っていたか。
 - ・ しつかりと世話をして、たくさん菜種を实らせよう。
 - ・ たくさん育てれば、その油で好きなだけ勉強ができるぞ。
- ③ 二十歳で自分の家を造り直すことができた金次郎は、どのようなことを思っていたか。
 - ・ やっと自分の家を造り直すことができた。頑張って菜種を育ててよかった。
 - ・ 諦めずにたくさん勉強をしてきてよかったな。
- ④ 自分がやらなければならぬことについて、頑張っていたかと思っただけでよかったか。
 - ・ 諦めずにたくさん勉強をしてきてよかったな。

事例②

諦めずに努力することの大切さについて考える展開

【主な学習】

- ① おじさんの言いつけを守って、一日中しつかりと働いている金次郎は、どのようなことを思っていたか。
 - ・ 自分が生まれた家をなんとしても造り直したい。
 - ・ 早く一人前になりたいな。
- ② おじさんに叱られたとき、金次郎はどのようなことを思っていたか。
 - ・ もう勉強を諦めようかな。
 - ・ 頑張ってもきつと無理だ。
- ③ もう勉強をやめようかと考えたのに、それでも諦めなかったのはどのような思いからか。
 - ・ ここで頑張ることをやめたら、夢は絶対になかなかない。
- ④ 菜種の世話をする金次郎は、どのようなことを考えていたか。
 - ・ 勉強や努力は続けていくことが大事だと思ったから。
- ⑤ 自分がやらなければならぬことを、どのように行っているか。
 - ・ 家族のために、しつかり手伝いを続けている。
 - ・ 当番の仕事を一生懸命やると気持ちがいいから、最後まで諦めないでやろうと思っている。

1 自分を見つめる
③ よいこと悪いことの区別をしよう

P.32~41

1-③

よいこと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。

1-1の内容項目のページの特徴

本内容項目は、学習指導要領で示されている道徳の指導内容の重点の一つである善悪を判断することと関連の深い項目である。

三十二ページには、よいと思ったことを進んで行っている場面のイラストや、三十三ページには、武者小路実篤の言葉も掲載されており、よいことを進んで行ったときの体験を振り返って話し合うことができる。また、三十四・三十五ページには、生活の様々な場面での善悪の判断を考え話し合ったり、三十六・三十七ページには、よいと思うことが進んでできたときの自分の体験を書き込んだりする内容があり、これらのページを活用して、よいと思うことを進んで実践しようとする態度を育てていくことができる。

2 活用のポイント

低学年の段階では、行ってよいこと、人間としてしてはならないことを区別できる力を養うとともに、よいと思ったことは、進んで行うことができるよう励まし、援助し、一貫した方針をもって指導していくことが大切である。しかし、低学年の児童は、引込み思案になり、その場の雰囲気の流れされたりすることも少なくない。そこで、例えば、三十四・三十五ページの善悪の判断

の場面について話し合いをするときには、各場面で行ってそのようにすればよいと思うのか理由も加えて話し合うなどして、よく考えた上で主体的により行いができるような態度につなげていきたい。

3 活用場面例

道徳の時間

読み物資料で話し合った後、自分自身を振り返る場面で、三十六または三十七ページの書き込み欄を活用できる。

事例

- ① いけないことだと分かっているけど、「やってしまおうかな」と迷ったことはあるかなど誰にでもある弱い心について話し合う。
- ② 読み物資料「ぼんたとかんた」を読んで話し合う。
- ③ 三十六または三十七ページの書き込み欄に、自分の生活を振り返って、よいと思ったことが進んでできたことを書き込む。
- ④ 三十三ページの武者小路実篤の言葉を読む。

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(2) 日常生活や学習への適応及

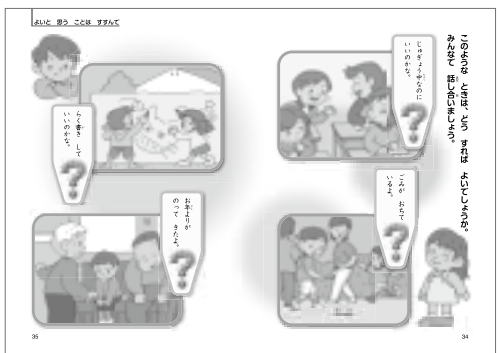
「健康安全」の「ウ 望ましい人間関係の形成」や「カ

心身ともに健康で安全な生活態度の形成」の指導に当たって、自分の生活を振り返って、よいと思うことを進んで行う態度を養う際に活用できる。

事例

- ① 事前アンケート「よいことを進んで行った内容」の結果を見て話し合う。事前アンケートでは、例えば、学校生活に絞るなど、視点を決めてアンケートを取るようにする。

- ② よいと思うことが進んでできたことを三十六または三十七ページに書き込み、どのような気持ちでよいことを実践したのかを発表し合う。
- ③ 三十四・三十五ページを読んで、このようなきどどうすればよいか話し合う。
- ④ これからも、進んでよいことをするための自分の目当てや方法を決める。



P.34~35

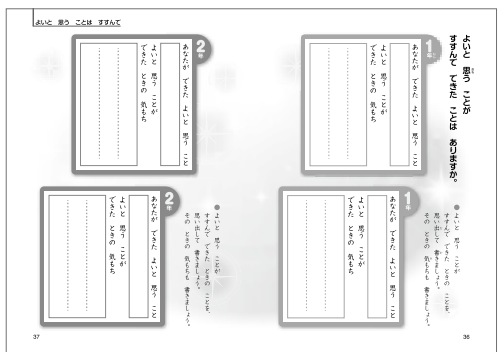
家庭との連携

本内容項目の学習をしたことを学級通信等で家庭に伝え、三十六または三十七ページの余白や別のワークシートなどに「家の人が見付けた、あなたがよいことを進んで行った姿」を書き込んでもらうよう家庭に協力を依頼する。よい行いをしてる姿を認めてもらうことにより、さらに実践意欲を高められるようにする。別のワークシートなどに書いてもらった場合は、「私たちの道徳」に貼って、記録を残すなどの方法も考えられる。

日常生活

低学年の児童は、よいことをしているも、自分の行動を意識していないことがある。また、友達の行動のよさにあまり気付かないことも多い。

よいことを進んで行った友達を見付けたら、帰りの会などで紹介し、カードに書いて教室掲示として記録に残すことも、児童の実践意欲を高める上で効果的である。



P.36~37

1 資料の特性

仲よしのぼんたとかんたは、公園で一緒に遊んでいたが、ぼんたが止めるのも聞かず、かんたが入ってはいけない裏山へ入って行ってしまふ。ぼんたはじっと考えて大きな声で「ぼくは行かないよ。だってあぶないから。」と叫ぶ。その声に驚いて、かんたが裏山から飛び出してくる。そして二人は裏山には行かないことに決め、気持ちよく公園で遊ぶ。

場面は違っても、児童の日常生活にも似たようなことがあるので、自分自身のことと重ね合わせて二人の思いを想像しながら、よいことを進んで行うことについて考えることができる資料である。

2 指導上の留意点

本資料では、自分が登場人物と同じ立場や状況だったら、どのように考えたり感じたりするかということ、登場人物の立場で考えたり、話し合ったりすることができる。また、かんたは悪く、ぼんたはよいということではなく、悪いと分かっているにもかかわらず、やっつけてしまいたくなるという弱さや、様々なことに興味をもつ気持ちも踏まえた上で、気持ちのよい生活を送るためにはどのように行動すればよいのかについて考えを深めていくようにしたい。

3 展開例

【わりい】

よいことと悪いことの区別をし、よいことを進んで行うおうとする態度を育てる。

事例①

ぼんたの思いを通して、正しいことをするよさについて考える展開

【主な学習】

- ①一緒に遊ぶ約束をしたとき、ぼんたはどのような気持ちだったか。
・うれしい。何をして遊ぶうか。
・かんたとは仲よしだから、一緒に遊ぶのは楽しみな。
- ②裏山に行こうと誘われたとき、ぼんたは、どのようなことを考えたか。
・危ないことに巻き込まれるかもしれないから、嫌だ。
・裏山には、入ってはいけないと言われていたけれど、でも、少し行ってみようか。
- ③ぼんたは、どのような思いで大きな声ではっきりと「行かないよ。」と言ったのか。
・友達でも、いけないことは言わなければならぬ。
・よくないことをして遊んでも楽しくないから行きたくない。
- ④よいと思うことが、進んでできたことはあるか。そのとき、どのような気持ちだったか。

事例②

役割演技を生かして、善悪の判断についての葛藤を考える展開

【主な学習】

- ①かんたは、どのような気持ちでぼんたを裏山に誘ったのか。
・面白そう。一緒に秘密基地で遊びたい。
・きつと、危ないことや怖いことなんか起こらない。
- ②裏山に行くことをぼんたとかんたはどう思っていたか。(役割演技を通して考える。)

ぼんた：駄目だよ。裏山には、入ってはいけないと言われているよ。
かんた：ばれないよ。面白そうだよ。一緒に行かないのなら、友達じゃない。
ぼんた：危ないから駄目だよ。友達だから注意するんだ。
かんた：真面目過ぎるよ。二人で行けば大丈夫。

- ③「ぼくも行かない。」と言って、ブランコに乗っているかんたは、どのようなことを考えていたのか。
・ぼんたの言う通りだ。言われたことを守って遊ぶと楽しい。
・確かに危なかったかもしれない。危ないことになってからでは、大変だった。やめてよかった。
- ④このような出来事するとき、自分だったらどのようなことを考えるか。

1の視点 重点ページ

つてはならぬじいじがあるよ

1このページの特徴

各場面の状況を見て、人としてしてはならないことについて考えることができるようになっていく。いじめの問題への対応も含めて活用を図りたい。

小学校での集団生活を始めている低学年の児童が、集団の中で生活していくためには、人としてしてはならないことがあることを、された側の身になって考えさせたり、なぜしてはならないのかを考えさせたりしながら、繰り返し指導していくことが求められる。

2 活用事例

■家庭との連携

四十二・四十三ページを参考にして、家庭で、家の人と一緒に「してはならないこと」として他にどのようなことがあるのかを話し合い、ワークシートなどに書いて本ページに添付することもできる。

また、家庭で話し合ったことを道徳の時間に発表するなどして学級で意見交流をしてもよい。

1 自分を見つめて
 (4) すなはち「ささな」

P.44~51

1-(4)

うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。

1 この内容項目のページの特徴

本内容項目では、してはいけないことをしてしまったりときには、素直にその非を認め、謝ること、正直で素直に伸び伸びと生活できるようにすることが大切であることについて扱っている。

四十四・四十五ページには、素直に謝ることですっきりするというのが考えられるような内容があり、四十六・四十七ページには、伸び伸びと明るい気持ちで過ごすために、継続的に自己評価できるチェックシートがある。これらのページを活用して、うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活しようとする態度を育てていくことができる。

2 活用のポイント

素直に伸び伸びと生活するためには、それが、どのようなことを理解させることも重要である。素直に伸び伸びと生活するとは、単に楽しく自由に過ごすというだけでなく、ごまかしをせず、自分自身の中に後悔や自責の念が生じたりしないように、真っ直ぐな気持ちで正直に対応し、生活していくということである。そうしたことを四十四・四十五ページで考えさせるなどした上で、四十六・四十七ページのチェックシートを活用し

て、日々の行動を振り返ったり、また、その内容について交流するなどして、素直に伸び伸びと生活しようとする態度を育みたい。

3 活用場面例
 ■道徳の時間

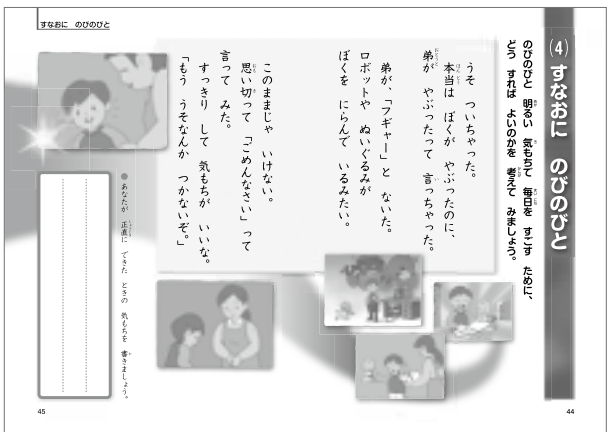
四十四・四十五ページの文章は、一年生の時期には、道徳の時間の読み物資料としての活用も考えられる。主人公の正直に話せないときの気持ちや正直に謝ることができたときの気持ちを通して、正直に話すことの大切さを考えるようにしたい。

四十四・四十五ページのイラストの主人公の表情を参考に、どのような気持ちなのか、自分もそのような気持ちになったことはないかなど、自分との関わりで考えられるようにしたい。

また、四十五ページの正直にできたときの気持ちの書き込みについては、そのときの気持ちを書き込んで、話し合うこともできる。話し合いの際には、なぜ正直にできたのか、そうしようと思った理由を交流することも考えられる。

事例

- ① うそを言いそうになったことがあるか話し合う。
- ② 四十四・四十五ページの文章を、読んで話し合う。
- 弟が破ったと言ってしまったのは、どのような思いからか。
- ロボットやぬいぐるみがにらんでいるように見えたのは、どのような気持ちからか。
- お母さんに「ごめんなさい」と言ったとき、どのような気持ちだったか。
- ③ 正直にできたときの気持ちを四十五ページに書き込んで話し合う。



P.44~45

■家庭との連携

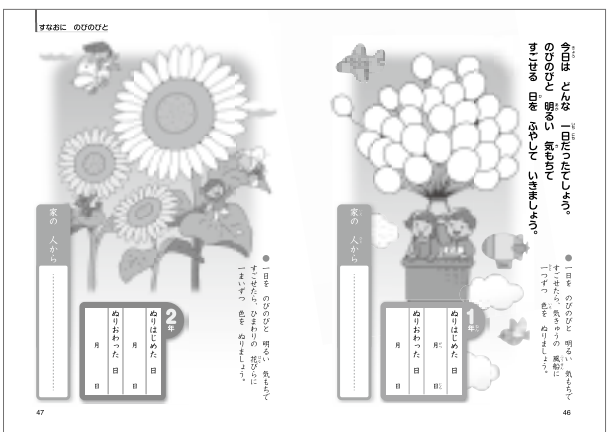
本内容項目の学習の様子を学級通信等で家庭に伝える。四十六または四十七ページの伸び伸びと明るい気持ちで過ごせた日について、どのようなことで色を塗ったのか

などを児童が家の人に話をした上で、「家の人から」の欄に言葉を書いてもらうようにする。

■日常生活

一日を伸び伸びと明るい気持ちで過ごせたら、四十六または四十七ページのチェックシートに色を塗るようにする。なお、伸び伸びと明るい気持ちとはどういうことかが、児童には分かりにくいので、真っ直ぐな気持ちで正直に対応した具体的な事例を紹介しながら、伸び伸びと明るい気持ちで過ごせた日が増えていくことを視覚的に捉えられるようにしたい。

また、色が塗れた日の出来事やそのときの気持ちなどを朝の会や帰りの会などで紹介し合うことで、実践意欲を高めていくようにしたい。



P.46~47

1 資料の特性

コロは、友達のコロにいじわるをして怒らせたことを謝ろうかどうか迷う。お月様の「きみの顔を、草のつゆの玉で見てごらん。」という言葉聞き、自分の暗く沈んだ顔を見て、はっとしたコロは、素直な気持ちで生活することで心が晴れ晴れすることに気付く。そして、コロは、ギロに謝ろうと心に決める。

本資料では、この三つの場面のコロの気持ちを考えることを通して、素直に伸び伸びと生活することの大切さに気付くことができる。

2 指導上の留意点

本資料の活用にあたっては、コロの素直に謝れない気持ちを自分との関わりで考えさせるとともに、そうした気持ちを乗り越え、素直に非を認め、謝ることで心が晴れ晴れすることに気付かせ、素直に伸び伸びと生活しようとする態度を育てていくようにしたい。

そのため、例えば、資料提示では、ペープサートを活用して、登場人物の表情を示し、その気持ちを想像しやすくするなどして自分との関わりで考えられるようにする工夫もできる。

3 展開例

【ねらい】

素直に生活することで心が晴れ晴れすることに気付き、素直に謝ろうとする態度を育てる。

事例①

明るい心で過ごすことのよさについて考える展開

【主な学習】

①謝ることができないコロは、どのようなことを思っていたか。

・ギロは何回も誘ってきて、うるさいんだ。

・自分のやりたいことをやって何が悪いんだ。

・誘ってくれたのに、ギロを怒らせて悪かったかな。

②露の玉に映っている自分の顔を見て、コロは、どう思ったか。

・こんな悲しい顔では嫌だな。意地悪したからかな。

・いつまでもこんな暗い顔は嫌だな。謝ろうかな。

③お月様の言葉を聞いて、胸を張って歌っているコロはどのようなことを思っているか。

・お月様の言葉の通りだ。明るい気持ちで歌っていると気持ちがいい。

・ギロに謝ろう。他の友達とも遊ぼう。

④コロは、次の日、ギロにどのようなことを話すだろうか。

・自分のことばかり考えていて、嫌な気持ちにさせてごめんね。

・謝らなくてはいけないと思うのに、素直に言えなかったんだ。ごめんね。

⑤素直に謝ってよかったこと、素直に謝れなくて困ったことはあるか。そのとき、どのような気持ちがあったか。

- ・お父さんが大切にしていたものを割ってしまったけれど、謝って心がすっきりした。
- ・友達から借りた本を破ってしまったことを言い出せなかったことがある。本当は謝りたいと思って悩んでいた。

◎役割演技の活用

コロがギロに謝る場面で役割演技を行うこともできる。素直に謝ることで、相手と気持ちが通い合うとともに、自分自身も伸び伸びとした明るい気持ちになれることを実感させるようにする。

その際、謝ったときに、どのような気持ちになるのかについても考えさせるようにしたい。

事例②

素直にできない思いや葛藤を考える展開

【主な学習】

①「あやまるんだ。」「あやまらなくてもいいんだ。」という二つの心が闘っているときのコロは、どのようなことを思っているのか。

- ・ギロは悲しんでいるだろうな。謝りたいな。いつまでもこんな気持ちでは嫌だな。

◎発問の工夫

「あやまるんだ。」「あやまらなくてもいいんだ。」と葛藤しているときの二つの心や、葛藤を乗り越えて、コロが胸を張って歌っている気持ちを問い掛けることで、素直に行動することのよさや難しさを考えさせるようにしたい。

また、児童の発言について、「○○さんの考えについてどのように思うか。」と問い返し、他者理解と自己理解を深めていくような工夫も取り入れたい。

・これまでも僕は、自分勝手に怒ってきたんだ。それで何が悪いんだ。今さら素直になんかなれないよ。

・自分のやりたいことをやっている方がいい。

②コロは、どのようなことを思って、胸を張って歌っているのか。

・このままでいると、気持ちがすっきりしない。

③素直に謝れたコロに言ってあげたいことは、どのようなことか。

- ・わがママを言ったり、人を困らせたりすると、相手も嫌な気持ちができるし、自分も気持ちがよくないだろう。分かっているけれど、ついそんなことをしてしまうことがあるよね。そんなときは、今日の気持ちを思い出すといいよ。

・素直に謝って、気持ちが明るくなったよね。これからも、その気持ちを大切にしよう。